

# P3-278 小胞体ストレスと線維筋痛症における抗疼痛薬による肥満の関与について

○荒谷 聰子<sup>1</sup>, 山野 嘉久<sup>2</sup>, 藤田 英俊<sup>1</sup>, 八木下 尚子<sup>2</sup>,  
伊藤 健司<sup>3</sup>, 長田 賢一<sup>4</sup>, 中村 郁朗<sup>5</sup>, 西岡 久寿樹<sup>1</sup>,  
中島 利博<sup>1</sup>

<sup>1</sup>東京医科大学 医学総合研究所,

<sup>2</sup>聖マリアンナ医科大学 難病治療研究センター,

<sup>3</sup>防衛医大 膜原病・アレルギー内科, <sup>4</sup>聖マリアンナ医科大学 神経精神科,

<sup>5</sup>医療法人社団 虎の門会

線維筋痛症 (FM) は正常と比較して刺激に対する痛みの閾値の低下および通常では痛みとして認識されない刺激に対しても痛みを感じ、加えて痛みが長く持続するという慢性疼痛を主訴とする原因不明の難治性疾患である。FM は全身の痛みに加えてリウマチの合併および炎症性症状、鬱・倦怠感、筋拘縮といった多岐にわたる症状を伴い古くからリウマチ性疾患として知られていたが、バイオマーカーもなく生化学的な異常も検出されないことから、その発症および病態のメカニズムについてはほとんど明らかにされておらず、根本的な治療法の確立されていない。抑制性の神経伝達物質 GABA 類似の薬剤が疼痛抑制に効果を示すことが報告された。しかし本薬剤および疼痛、鬱様症状に対し処方される向精神薬は副作用として体重を増加させる症例が報告されている。これらの薬剤の多くは中枢神経系に作用し食欲の亢進するためと考えられているが、原因が不明の肥満も認められる。近年、肥満と炎症、小胞体ストレスの関与が明らかにされつつあり、当研究室においても小胞体関連分解において機能する E3 ユビキチン化酵素が肥満に関与することを見出している。そこで本研究では抗疼痛薬および抗精神病薬と小胞体ストレスの関与着目し末梢での作用の検討を行った。

利益相反：有